様式２

北海道美唄美唄尚栄高等学校の行動計画（アクションプラン） Part２

全国の農業高校の行動計画		学校において平成２８年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「５つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ 持続可能な循環型社会の実現に向けて農業教育と環境教育 を推進し、地域の先進的なエコロジカルアグリハイスクールを目指します。	①環境保全型農業を推進する農業教育を実践します。	(1)生産現場を学ぶ中で、製品の無駄を見直し、原材料を有効に利用する方法を見直します。	ソーセージ、ベーコン、レトルト食品、乳製品など未利用資源の活用を実施した。	授業をとおして製品、薬剤の無駄について学び生徒自ら積極的に取り組む環境を作る。	3
	②自然環境保全などの環境教育を推進します。	(1)農業クラブ活動をとおして、地元の農業を学び、食品や原材料生産に携わる方々と交流することで、将来的な啓蒙を促します。	北海道空知総合振興局と連携し、地元農業の視察研修を実施した。	原材料の見直しを進め、素材への興味、農業への関心をさらに高める。	3
Ⅱ 農業に関する基本的な技術や経営能力、倫理観をもった将来のスペシャリストを育成します。	③農業の担い手を育成します。	(1)美唄の基幹産業、稲作と畑作の生産物加工の研究指導に努め普及活動の推進します。	地元農産物の未利用資源を活用し新しい加工品を生み出す研究を行った。	製品の研究開発、外部機関との連携をとおして、食のスペシャリストの育成を行う。	3
	④食の安全・安心教育を徹底します。	(1)製造マニュアル、及び機器管理システムの見直しを行い、食の安全・安心教育に活動します。	全ての販売製品の製造マニュアルと製造記録作成を実施した。	ＨＡＣＣＰの考え方を導入し、製造途中のチェック体制を強化する。	3
Ⅲ 地域貢献、地域連携を推進し、地域農業の発展に努めます。	⑤地産地消を推進するとともに、地域の伝承文化の継承に努めます。	(1)地元農業関連者との交流をとおして、美唄の食材や歴史について学びます。	2つの地元農業関係者と連携し地元食材を活用した製品の開発（アスパラケーキ、チーズ）を行った。	各製品のストーリーを考え、その魅力を伝える販売方法を確立する。	3
	⑥産業界や大学等との連携を強化します。	(1)美唄市役所や高等教育機関・企業と連携し製品開発や商品のPRに務めます。	拓殖短期大学や地元西川農場と連携し、商品を行った。	連携を維持し、研究商品の販売化、定番化を目指す。	4
Ⅳ 農業教育の普及、奨励、支援を行います。	⑦すべての児童・生徒に対して、農業教育の普及活動を実践します。	(1)インターネット及び農業クラブ通信、販売会で広報活動を実施します。	掲示教育を強化し、農業クラブの重点活動を１枚のパネルにして掲示した。	インターネットでの普及活動の方法について検討する。	3
	⑧すべての人に対して、農業に対する関心と理解が深まる活動を行います。	(1)学校間連携、特に小学校との交流活動をとおして、自然科学の原理を学習します。	７０％以上の農業クラブ員が小学生との食育活動（稲の栽培）に参加し農業に対する理解を深めた。	農業をとおした食育交流に１００％の農業クラブ員が参加できるようにする。	3
Ⅴ 東日本大震災からの農業の復興を支援し、自然災害による被害の軽減に努める人材を育成します。	⑨自然災害による被害の軽減や自然エネルギーの利用についての学習を推進します。	(1)地元をフィールドとした農業体験をとおして自然との関わりを考える機会を設けます。	プロジェクト活動や視察研修をとおして食と農の関わりについて学んだ。	授業をとおして環境問題について学ぶフィールドワークを実施する。	3
	⑩東日本大震災で被災した農業高校・生徒を支援します。	(1)本校ボランティア局と農業クラブが連携し、支援する方法を模索します。	農業と環境の授業の中で被災地の現状について学んだ。	被災地支援について具体的に活動する方法を模索する	2